

スターズ大健闘、全日本大会16強入り

山王スターズは創部以来はじめて全日本小学生男女ソフトボール大会に東京都代表として出場し見事3回戦まで進出した。出場決定から地域、保護者、応援団の声援に支えられて歩んだ約1年間の汗と涙の結晶でもある。オリンピックで沸いた2004年の暑い夏に、この滋賀県遠征はスターズの選手たちの胸に大きな思い出として刻まれた。

プロローグ

全日本大会出場への道は昨年夏の予選会から始まった。最終回逆転サヨナラもありうる満塁での最終打者を3ボール2ストライクから三振にとった一球を忘れることができない。

全日本大会出場決定の通知を受けて、チームは一丸となって緒準備に入った。保護者は田中運営委員長のもと地域関係者への挨拶を進める一方、選手たちはこれまで土曜日だけの練習から、日曜日はもちろん冬休みも春休みもほとんどを練習にあてた。



合宿・遠征

早速に昨年8月には山梨愛宕山少年自然村に、12月には平和島ユース、そして春休みには三浦ふれあい村で強化合宿を行なった。また遠方へもかなりの遠征を経験した。閉会式は雨となった亀有での準優勝、春一番の吹き荒れた小田原での西湘戦、雪の舞う茨城県ひたちなか市舟石川小学校での試合、今では朋友の佐野ソフトボールとの日立会瀬海岸での合同合宿、金沢区の南部バッファローや西富エイト戦では途中から雨に雪谷高校での先輩の応援見学となる。高木コーチの故郷熊谷市籠原ジュニアとも対戦した。そしてこの夏には川口から日立と連日の遠征も経験し、同時にほかのチームの仲間とも交流することができた。



大田区春季大会敗北と東京都大会優勝

昨秋の大田区大会優勝から春季リーグ記念大会でも完勝し、チームは着実に力をつけてきたが、今区春季大会ではまさか無念の1回戦敗北を喫した。すでに推薦を受けていた都大会では万全を期しての出場となったが、緊張した中にも試合は優勢に進むことができ、納得いける優勝を勝ち取った。



運営委員会・バザー・壮行会

保護者は協力し合って普段の練習から数々の遠征のサポート、そしてすばらしい壮行会が開催された。スターズの応援歌2曲もでき、子供たちが遠征の車中で口ずさむほどになった。遠征資金のためにバザーやカンパにも多くの協力をいただいた。



地域・学校

全日本出場に対して多くの方から物心両面でのご支援をいただいた。学校・チームの先輩や校長先生・PTA会長も守山市まで応援に来てくれた。神社や町会の催しでもたくさんの声援を、そして大田区長からも直接に激励をいただいた。横断幕やポスターも街のあらゆるところに。学校、神社、ダイシン百貨店をはじめ各商店会、自治会掲示板に「がんばれスターズ」があられ、大きな輪の中で選手たちの「元気」を応援してくれた。



滋賀県守山市

いよいよ大会遠征、8月6日開会式の朝6時すぎ、大型バスに選手と応援団が乗り込む。ホームアローンのビデオを見たり5円じゃんけんをして約7時間のバスに揺られてついた会場は、うわさどおりの猛暑だった。開会式では大きな市民球場に120チームの選手と3000人の人波があられかえった。



全日本大会



第1試合8月7日 対 いわれ 奈良県代表

初回表、打者11人で大量7点をリードした山王スターズは、ベンチ入りした選手が順次入れ替わり5回90分の間に合計11点を入れ大勝した。



第2試合8月8日 対 高津ジュニア 愛媛県代表

攻守に鍛えられた動きのよいチームだった。初回は互いに走者を出しながら無得点でスタートしたが、2回裏、左翼線安打の太田将を2塁において、1番鈴木君が適時打で返して先制点を挙げた。5回には内野安打の石倉君が盗塁で2塁に進み、同じく鈴木君が中前安打で返して2点目をあげた。更に3番児玉君が内野安打で続き、これを4番笹葉君が右中間2塁打で返して、この回合計3点をあげた。

守っては先発の中野君から鈴木君に継投して守備陣は無失策で第2戦目の勝利を味わった。



第3試合8月9日 対 鹿屋ソフトボール 鹿児島県代表

速球投手を中心としたチームであった。初回1番鈴木君は右翼線安打で出塁したが塁を進めることができなかった。その裏重いグラウンド特有のバントが連続して決められてしまう。相手4番打者は甘い玉を見逃さずいきなりの先制3塁打を放たれた。

以後も守りのミスについて安打は少ないながら適時打を組み合わせ得点された。一方スターズは相手投手の好投にバットが合わず8三振と打線は不振だったが、3回には太田君が左翼線の3塁打を、また6回裏には左中間安打の鈴木君を塁において4番笹葉君が左中間に長打を放って1点を返し、更に続く井組君が左翼線安打で追い上げムードとなるが、その後盗塁をつかれて機会を失った。



試合終了

初出場ながらベスト16は東京都タイの記録であり選手応援団は最高のパワーを発揮した。週1回練習するラバーの校庭出身のチー

ムが数々の障害を乗り越えてこうした大きな大会をこなしてきたことは注目することでもあり、振り返ってチームの軌跡に感嘆する。またこの大会のあとすぐに関東大会にも出場したが、惜しくも1回戦で敗退、しかし翌週の野球大会は不慣れながらも圧勝するという暑い夏をまさしくハードに、元氣よく過ごした。ともに協力してくれた各チームの選手・指導者には心より感謝する。



宿舎は雄琴温泉

宿舎は会場から琵琶湖大橋を渡って40分ほどの琵琶湖グランドホテル。京都の奥座敷として有名なこの地は風光明媚な温泉付のホテルで、連日の湖畔の花火や屋外でのバーベキューが印象に残った。



選手名簿

太田修司、鈴木健太郎、田中雅俊、許凱詠、許凱棟、布施俊祐
メッセルマ二啓須、笹葉元樹、田儀浩明、岩瀬翔旭
石倉成剛、金政貴、大野耀裕、西谷紅葉、玉島寛隆、高木聡
遠藤太郎、児玉光、澁谷怜祉、井組悠介、須藤健人、中野拓弥
指導者

鈴木英明、大野光明、高木誠、西村卓三、小林英希、鈴木淳平
運営委員長 田中俊章 応援団長 吉田正博



エピソード

思いっきりすごした暑い夏、スターズの夏を思い出に何事にも一生懸命向かっていこう。打てる打てる打てるぞ〜必ず打てるぞ
ゴーゴー スターズ。ありがとう 山王スターズ!!

